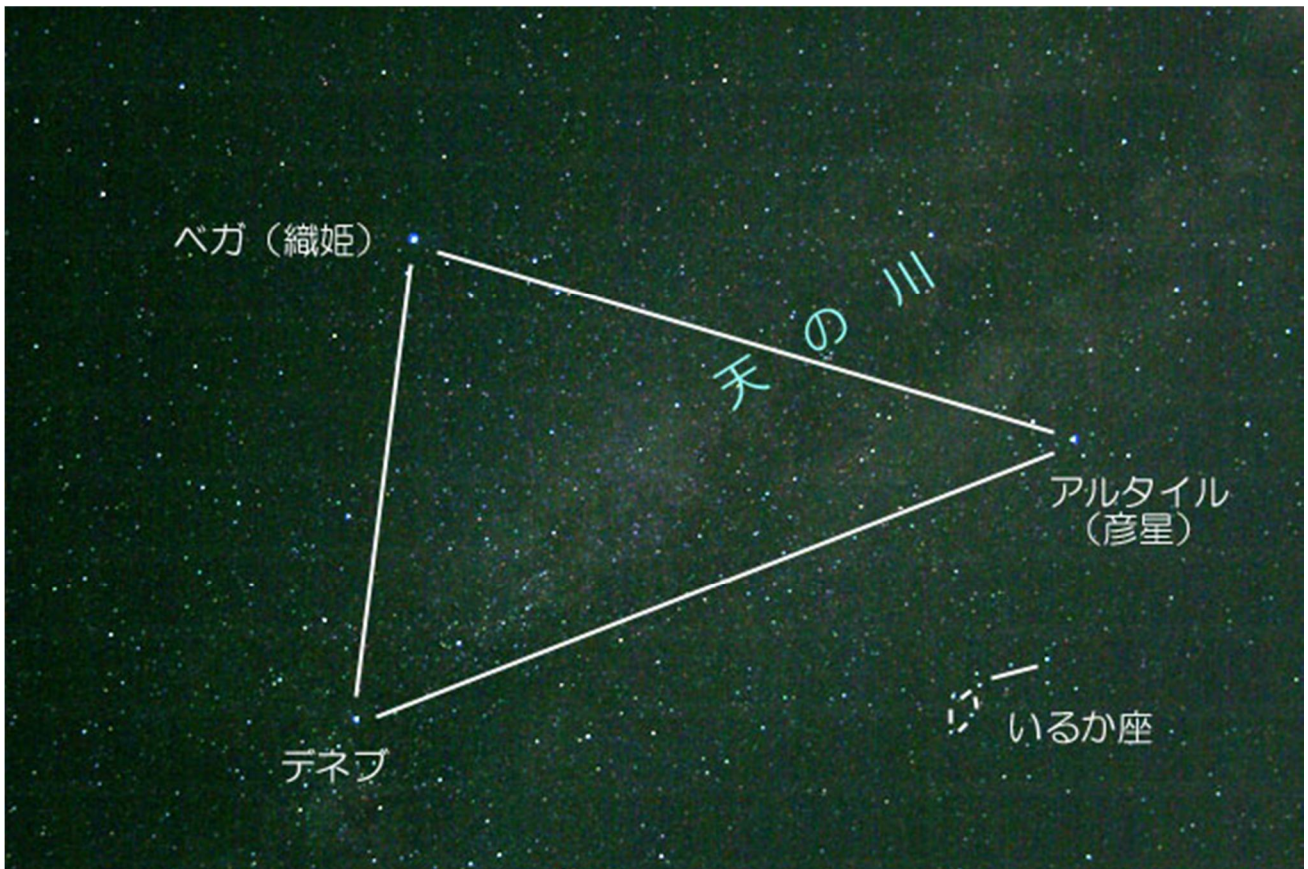


「4等星ばかりの星座」

全天には88もの星座があります。全天恒星図(星の地図)を見ると、それぞれの星座にきちんと境界線が引かれています。世界地図の国境線とはちがひ、すべて座標軸(赤緯・赤経といいます)のみで仕切られた直線のみです。(正確には天球上の曲線。)南十字座やオリオン座のように複数の一等星を独占している星座もあれば、一角獣座のように、どうがんばっても所在すらわからない星座もあります。

夏休みの定番宿題の一つに「星の観察」があります。夏の星の観察といえば、主役は「夏の大三角」でしょう。ベガ(こと座)・アルタイル(わし座)・デネブ(白鳥座)の3つの一等星で作られる二等辺三角形は、光害の激しい東京の夜空でもはっきり見ることができます。しかし、その脇にひっそりと寄り添っている小さな星座に気づくでしょうか。それが「いるか座」です。私は「一番好きな星座は?」と聞かれると、迷わず「いるか座です。」と答えます。

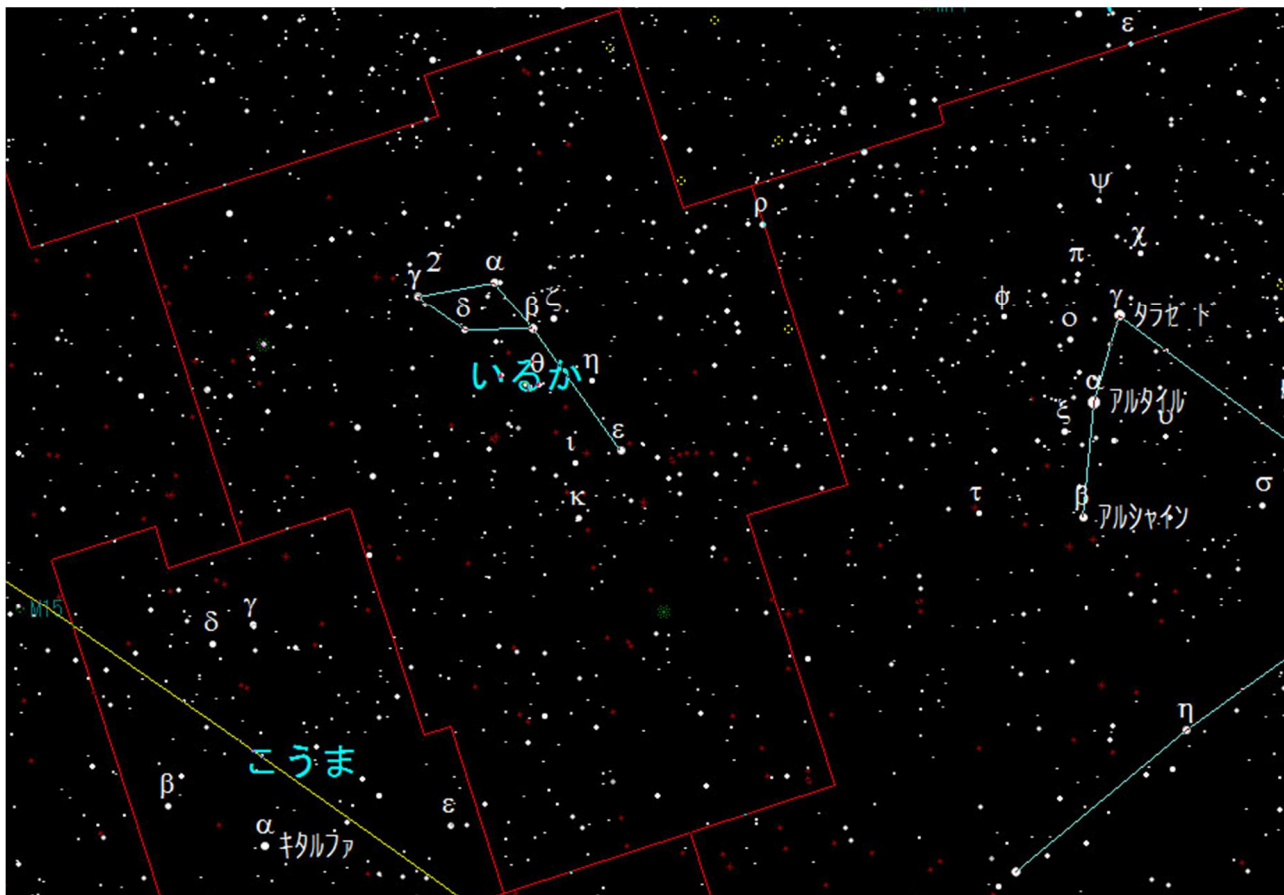


「いるか座の位置」 よく目立つ夏の大三角の脇で、ひっそりと泳いでいます。北軽井沢で撮影。

この「いるか座」、明るい星は一つもなく、4等星と5等星ばかりです。しかし、暗く小さいながらも、同じような明るさの星が形よく並んでいるので、よく目立ちます。少し空の暗い郊外の空なら、観察できるでしょう。東京でも位置関係さえ頭に入れて、双眼鏡を使えば、確実に観察できます。ベガとデネ

ブを下底、アルタイルといるか座を上底とした「細長い台形」を思い浮かべれば簡単です。

実は、本校の使っている理科の教科書にも夏の大三角のすばらしい写真が載っていて、わざわざ星座線を描いた「透明シート」までついています。そこにちゃんと「いるか座」も写っているのですが、何も解説がないのが非常に残念です。



「いるか座付近の星図」

赤い線が星座の境界線。星座の大きさは、赤緯・赤経の視角度のかけ算で計算します。

いるか座そのものは結構な大きさ（約 190 平方度）を持っています。

子どもにも、オリオン座のような子もいれば、いるか座のような子もいます。4年生を担当していた時に、授業では目立たないけれど、地道にがんばっている子がいました。常によく考えてノートをまとめ、クラスの仕事も進んでしていました。私は修了式の日連絡帳に、

「あなたは、いるか座のように美しく輝いている子です。5年生になっても輝き続けてください。」

と書いてあげました。その子は文を見て、不思議そうな顔をしていました。たぶん「いるか座」という星座を知らなかったのでしょう。そのまま忘れていたのですが、新学期になってその子から返事の便箋がきました。

「私はいるか座について調べてみました。星座の本にのっていました。4等星ばかりなのに、とてもきれいな星座でした。先生が書いてくれたように、私はいるか座のようにがんばりたいと思います。」

やっぱりこの子は、いるか座のようにすばらしい子でした。



「山の端のいるか座」

残念ながら、しっぽの ϵ 星は稜線に隠れてしまい、写っていません。山梨県忍野村で撮影。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)